

二人のわらべ



No. 553
令和7年4月15日
天童市教育委員会
学校教育課

未来を描き、問いを立て、解決・創造する力を育む学校教育

天童市教育委員会
教育長 町田 真裕

令和7年度がスタートしました。世の中では、技術革新や情報化、グローバル化が急速に進んでおり、将来の予測が困難で、変化が激しく複雑な時代だと言われます。学校現場においても、授業づくりや不登校、いじめ、働き方改革、部活動の地域展開、教員不足等、各校には、日々、課題解決に果敢に立ち向かっていただいています。

市教育委員会としても、軸足を学校に置き、課題が少しでも解決に進むように、助け、励まし、支える仕事を協働的に取り組んでいきたいと思っています。

今年度は、「専門職」「信頼」「研鑽」の3つをキーワードにして、本市学校教育を前進させていきたいと考えています。

「専門職」

教師という職業は、全人格をもって子どもと向き合うことが要求される尊い職業「専門職」です。「専門職」だからこそ、教師は子どもにきちんと力をつけなければなりません。

どの子どもも「学びたい」「できるようになりたい」と思い、学校生活を送っているのです。教師はそれに応えるという覚悟を持つ必要があります。

そして、子どもができないのは教師がさせていないだけであって、うまくいかない原因を他者に求めず、自分に向けなければならないのです。

そのような誇り、プライドを持って真摯に教師という「専門職」に努めなければならないのです。

「信 頼」

子どもや保護者、地域、そして教職員同士での「信頼」なしに、根本的な課題解決に向かうことはできないものです。

しかしながら、「信頼」というものは簡単に得られるものでもなければ、何もしなくても得られる

ものでもありません。また、失うときは一瞬です。

「信頼」は好感や尊敬、安心等を積み重ねることでも生まれてきます。

「人間は、好きな人、尊敬する人から学ぶようにプログラミングされている」（動物行動学者コンラート・ローレンツ氏）という言葉があるように「信頼」は学校教育に不可欠なものです。

そのためにも、日頃から、親切や丁寧、一生懸命等々の教師として当たり前である姿を、何に対しても意識して行動しなければならないのです。

「研 鑽」

いい授業をしたい。わかる授業をしたい。子どもが主体的に活動する授業がしたい等々と思うことは教師の本能です。その本能の赴くままに研修や実践を進めていく「研鑽」が必要です。

そのためには、例えば、単元内自由進度学習等の新たな実践に取り組んでみることや更なるICTの利活用を試みる等、授業づくりへの工夫や熱意を持ち続けていかなければなりません。

学びたいと思う子どもの前に教師が立てば、教育が成り立っているかのようになることに慢心してはダメなのです。教師が「専門職」であり続け、「信頼」を築き続けるためには、教師自らが主体的に学び、力量を高めるための「研鑽」をやり続けなければならないのです。

今、大切にしたいことは、新たなことに挑戦する勇気とその実践、そして、そこから導き出される新たな創造。さらには、何を手放し、何を手放さずに進むかを思慮した代謝であると考えます。

子どもや保護者、教職員、地域が、安心でき、成長できる学校づくり、そして、一人一人が幸福感を持てるような環境づくりに、天童市内の全教職員で頑張っていきましょう。